

11月12日 岩湧山

藤村 敏幸

山名	岩湧山	山行名	岩湧山と国華園（例会）	
ルート	滝畑湖畔観光村駐車場→岩湧山→滝畑湖畔観光村駐車場			
山行日	2020年11月12日	天候	晴れ	
参加者	CL 藤村 SL 西川 男性 木田 女性 牧之瀬 和田 河野 伊藤多恵子 川上 小林			
	コースタイム			
	地名	時：分		
	観光村駐車場発	9:15	岩湧山頂上発	12:20
	岩湧山頂上着	11:40	観光村駐車場着	14:15
<p>11月になると少し寒くなるので穏やかな気候の近畿南部で、且つ比較的近距離である岩湧山を計画する。車での日帰り登山なので岩湧山山系を西から東へ縦走することが無理なので、頂上までの往復登山とする。午前9時頃に河内長野市の滝谷ダム湖畔の観光村駐車場に到着する。平日で一番乗り駐車場に駐車する。公衆トイレ横の登山口から登る。登り道はよく整備され、急勾配の箇所も思いのほか楽に登ることができた。途中でダイヤモンドトレール（屯鶴峰（香芝市）から槇尾山（和泉市）までの4.5kmの自然歩道）と記された道標を見て、なるほどと納得する。厳しい急斜面はつづら折り道となる。2回ほど衣服調整の為、休憩してカキザコの三差路を通過する。東に進むと雑木林を抜けて、ヒノキ林の中を歩く。間伐され整然とヒノキが並び、光も差込み清々しく感じる。階段の踏み台は、太い間伐材で作られ頑丈である。やがて鉄塔のある稜線に出て休憩する。この時西川さんよりレモン入り寒天ゼリーを御馳走になる。この日の為に前日から準備されありがとうございます。稜線を東に少し進むと、突然視界が開け、枯れカヤに覆われた丘が現れる。後背地には緑色のヒノキ林があり一層白いカヤの丘が眩しく感じられる。カヤの中の急階段をゆっくりと最後の頑張りと思い登り続け、少し汗ばむころようやく岩湧山の頂上に到着する。予定時間より10分遅れであるが、ほぼコースタイム通りである。新人の2名の方も遅れることなく登られる。頂上はカヤに囲まれた平地で、眺望がよく、北方面には遠く堺のコンビナート、PLの平和の塔、東には葛城山まで続く和泉山脈、西にはりんくうタウンのゲートタワーも見ることができた。山頂には、この岩湧山の茅場は滝畑自治会の所有地と記された石碑があり、その横の案内板には、火の用心の看板と共に、山頂一帯のカヤ場はキトラと呼ばれ、重要文化財などの屋根葺きに使用していると説明されていた。この美しいカヤの群生は自然のものではなく、昔より生活資材として、人工的に作られ、管理されている草木であることが分かる。それを示すように頂上の中心に岩湧山茅山保全協議会が最近建てた大きな御影石で作られた四角形の台座があり、ここから見える風景が刻まれている。食事後に、ツェルトはどのように使用するのかとの質問があり、西川さんがツェルトを広げテントの形にして説明をした。登り道を約2時間掛けて引き返す。登るときには勾配を急と感ずることがないが道であるが、下るときには急勾配と感じたので、20分に5分程度休みながら下山する。途中2回ほど休憩時間が長いので、出発を催促される。駐車場には2時15分に戻る。帰る途中に国華園に立ち寄り菊花展を見学する。三本立て、福助、盆栽菊等が幾つものハウスに豪華に展示され、見る人を圧倒していた。1時間程度では十分に観賞することができないほど多くの菊がある。参加された皆様、登山口までの長時間乗車と、約4時間30分の登山ご苦労さまでした。運賃計算をお願いした伊藤さんありがとうございました。 ヒヤリハット なし</p>				

感想文

伊藤 多恵子

本当に気持ちのいいハイキング日和。交互に現れる杉林と紅葉の雑木林を過ぎると、突然目の前にドーム型のススキの原が！オーッと叫びたくなる。真っ青な空とススキの白い穂のコントラストがきれい。背丈ほどの穂に囲まれた階段をぐんぐん上ると頂上が。ぐるり 360 度の眺望が素晴らしい。

ハイキングの後、立ち寄って鑑賞した国華園の菊の盆栽も見事でした。新人さんの参加も嬉しいものです。長距離の運転をして下さった CL、SL のお二人、ありがとうございました。

和田 千恵

2 日前まで出かけていたので、急いで山支度をして体力も気になっていたが、心地よい秋晴れの、公園の散策と言えそうなゆったりした山道を歩き、頂上に着く直前のススキの小山を少しだけ駆け登った！下りは、こんなだったかなと思うような急坂もところどころにあって、ちょうど良い山行だった。帰りに見学した国華園の菊の展覧会は圧巻！感想文を書いていたら NHK ニュースで昨日の展覧会を放送していました！

牧之瀬 久佳

11 月とは言っても紀の国は和歌山。紅葉にはまだ早く、冷え込みも少ない登山日和でした。

頂上での昼食休憩には頭上には曇一つない青空が広がり、遠くには木の国の名前の通り山の連なりが見張らせて気持ちの良い山登りでした。印象に残ったのは、その山頂にもう一步という山斜面全体をススキが陽を一杯に浴びて、その白い穂を風になびかせる景色でした。

思わず誰かが口にしたのは若草山やあ！そうそうその通りでした。登り易い道の割に下山は同じ道なのに[こんなにしんどかったかしら]と思いましたが CL の藤村さんが休憩時間をこまめに取って下さいました。和歌山まで最寄りのバス停から登山口まで、楽々で行かせて頂きましたのは、藤村さん、SL の西川さんのお陰でした。有難うございました。

木田 修司

いつもながら FCL の 10 分刻みの緻密な計画通りに、晴れ男・晴れ女の集まるパーティーで岩湧山からススキ越しの大阪平野遠望、国華園の菊花展見学を絶好の山行日和で楽しめた。(CL 指示の 2 行)

(続き) 一部の急坂を除き、良く整備されたなだらかな登りに少し物足りなさを感じながらも、散策気分に登りを楽しんでいたが、山頂直前に急な長い階段が現れ登頂時には少し汗ばんでいた。下山は同じ山道とは思えないほど足・膝が疲れ日頃の鍛錬不足を痛感した。

国華園では全国から精魂込めて育てられた見事なキクが、様々な形で園内いっぱい咲き誇っていた。「いったいどれほどの時間が費やされているのか？」菊づくりの名人たちの日頃の丹精込めて仕上げられた作品に、ここまでできるものかとただただ感服した。

(蛇足) 頂上付近にあった「索道」は、もしかして「山頂の茅を降ろすためのものでは？」と思いながら気になって確認したところ、滝畑ダム建設(1981 年竣工)の付帯工事で設置し、1995 年頃まで茅の搬出に使っていたとの事でした。

